

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	中川ゼミ	チーム名	Team しんたろー。
タイトル	GIS データを用いた大気汚染による影響についてのヘドニック分析		
テーマ群	c)公共経済		
メンバー	小橋 泰彦、池内 陵人、伊東 真輝、金山 裕貴、北山 敬太、鯉渕 瑠、仙波 雪乃、中野 光人、中村 元稀		
研究計画内容	<p>[研究の背景と目標] 大気汚染は時代とともに環境や人々に被害を与えてきた。紡績業や製鉄業の規模が拡大した明治時代には硫黄酸化物が発生し、高度経済成長期には各地で公害が発生し、1985年以降は産業公害型の大気汚染収まったが、自動車の排気ガス等に含まれる窒素酸化物の大気汚染が深刻な問題となり、人々に大きな健康被害を与えた。大気汚染の主な物質である窒素酸化物(NO_x)は喉、器官、肺などの呼吸器に悪影響を与え、硫黄酸化物(SO_x)は気管支炎、ぜんそくの発症につながる。以上は一部の例であり他の物質も様々な健康被害をもたらす。人々の健康被害は社会問題へと発展した。今では、大気汚染防止法の制定やディーゼル車の導入などの取り組みが行われており、年々、自動車排気ガス規制の強化がされている。大気汚染の問題から、健康被害の歴史と現在への取り組みについて理解することができる。そこで、私たちは自動車の排気ガスを減らすにはどうすれば良いかという問題意識に立ち、自動車による大気汚染に焦点を当てて研究を進めてきた。</p> <p>[研究内容] 私たちの研究は、まず八木(2002)の出発点に、二酸化窒素を対象にヘドニック・アプローチを用いて、その環境における土地の価格を求めるところから始めた。評価については、ヘドニック価格関数というものを推定し、それを対象とする環境属性で偏微分した。</p> <p>分析には QGIS、R というソフトを使用した。QGIS では公示地価、大気汚染、道路のデータのこれらを結合し一つのファイルにまとめた。次に R を用いて、公示地価を被説明変数、二酸化窒素濃度を説明変数としてそのファイルの解析を行った。</p> <p>[期待される効果]</p> <p>この研究を通じて、近年の世界中で議論されている環境問題について少しでも興味を持ってもらいたい。また、欧州をはじめ他国が行っている環境問題対策をもとに、私たちが考える政策の提言についても発表する。</p>		